

2010年3月期 第3四半期決算IR説明会(2010/1/29開催)

質疑応答内容

Q: 上期から少し税率が上がっているが、JAL優先株減損の税効果も含め、その理由は？

A: 上期の株式売却益は繰越欠損金がある単体で計上したため、法人税が発生せず税率が下がったが、今回の評価損も同様に単体での計上であり、その結果、上期とは逆に連結納税グループの利益比率が低下したため税率が上がった。

Q: ベネズエラにおいて通貨の切り下げがあったが、同国における自動車事業の今後の方針と足元の状況について教えて欲しい。

A: 通貨切り下げへの対応として、徐々に値上げをする必要があると考えているが、当社は現地で組立を行っており、ノックダウンパーツの輸入に適用される為替レートはその他に適用されるレートより切り下げ幅が小さいため、影響は比較的少ないと考えている。また需要は落ちていないため、労務問題による生産効率の動向も注視していく必要があるが、事業は継続する方針。

Q: 期末配当を未定としているが、配当実施の可能性は？

A: 期末配当を実施するために資産売却益による配当原資確保は考えていないが、当社の配当方針は連結配当性向20%の他に、安定的かつ継続的な配当も重要な方針としている。従い、通期の実績を勘案した上で、ご提案させて頂きたいと考えているため、現時点では未定とさせて頂いた。

Q: JAL関連でデリバティブ、リース等で追加損失が出る可能性は？

A: デリバティブ取引については行なっておらず、またリースについても該社のオペレーション上必要な取引については維持されると聞いているので、影響はないと考えている。

Q: 前回の決算発表から更に見通しを下方修正した理由は？

A: ロシアの自動車事業、マグロを始めとした水産事業に代表されると思うが、想定よりも回復のスピードが遅れたので早期に収益力を回復させるため在庫処理を加速させたことと、一過性の懸念材料を織り込んだため。

以上